ROYAL ENFIELD

ロイヤルエンフィールドジャパン
(総輸入発売元:ピーシーアイ株式会社)
2026 年 11 月 20 日
PCI-RE2026037

アドベンチャーへの回帰。ロイヤルエンフィールド、新型「HIMALAYAN 750」を発表



- **新型「HIMALAYAN 750」。冒険のあるべき姿をシンプルに妥協なく体現**
- **HIMALAYAN ファミリーの最新モデル 10 年にわたり冒険を身近な存在とした初代 HIMALAYAN 411 の系譜を継承**
- **個性豊かな排気量 743cc 空冷並列 2 気筒エンジンは、5,000rpm で 63Nm のトルクを発生**
- **シート高 815mm、最低地上高 205mm、容量 17 リットルの燃料タンクに加え、フロントダブルディスクブレーキ、コーナリング ABS、リーン角感応式トラクションコントロールを装備**

ミラノ、2026 年 11 月 3 日：「HIMALAYAN 750(ヒマラヤ・ナナゴーマル)」は、HIMALAYAN シリーズの精神を力強く、そして新たに表現する最新モデルです。2016 年に登場した HIMALAYAN 411(ヒマラヤ・ヨンイチイチ)は、アドベンチャーバイクを誰もが楽しめるものにし、世界的なムーブメントを起こし、ミドルアドベンチャーという新しいカテゴリーを生み出しました。それは数十年にわたるロイヤルエンフィールドのバイクづくりの知見と経験から生まれ、ロイヤルエンフィールドとともに山岳地帯の走行に挑んだ、勇敢なライダーたちによって形作られました。シリーズの初代モデルである HIMALAYAN 411 に続いて登場した HIMALAYAN 450(ヒマラヤ・ヨンゴーマル)も世界的に高い評価を得

ました。最近では、多くの要望に応えて HIMALAYAN 440(ヒマラヤン・ヨンヨンマル)を開発し、一部地域で発売しました。

HIMALAYAN 750 は、ライダーによる、ライダーのためのバイクづくりというロイヤルエンフィールドの伝統を受け継ぎながら、地平線と新たな冒険を求め、故郷から遠く離れた場所へと走るライダーのために設計しました。

これまでの HIMALAYAN シリーズ同様、HIMALAYAN 750 は、ライダーの心の奥底に響くライディング体験を提供するために設計しました。ライダーを支える新しい技術を備えながら、旅への自発的なチャレンジ精神を損なわないよう、最新技術と伝統的なメカニズムをバランスよく融合させました。

新開発のスチール製フレームを持つ HIMALAYAN 750 は、ライダーをこれまで以上に遠くへ誘い出すためにデザインしました。中核を成すのは、個性豊かな排気量 743cc 空冷並列 2 気筒エンジンです。5,000rpm で 63Nm のトルクを発生。その最大トルクの 90%を 3,500rpm という低回転から引き出せるため、どのような道路状況や路面コンディションでも、力強く扱いやすいトルクを発揮します。

あらゆるライディングスタイルに対応するよう設計した HIMALAYAN 750 は、ボタンひとつでその性格を変えます。6 軸慣性計測ユニット(IMU）を搭載し、5 つのライディングモード、コーナリング ABS、リーン角感応式トラクションコントロール、クルーズコントロールも採用しています。フロント 19 インチ／リア 17 インチのチューブレスホイールは、カラーや装備によってキャストホイールとスポークホイールを選択しました。調整可能なウインドスクリーン、独立したライダー用およびパッセンジャー用シートも装備しています。

HIMALAYAN 750 について、アイシャー・モーターズ マネージングディレクター兼ロイヤルエンフィールド CEO の B・ゴビンダラヤンは、次のように述べています。

「10 年前、私たちはミドルウェイトのアドベンチャーツーリングというカテゴリーを生み出しました。それ以来、HIMALAYAN シリーズは、世界 32 万人を超えるライダーのコミュニティとともに、単なるアドベンチャーバイクのモデルカテゴリーを超え、ライダーたちが自分らしいスタイルで世界を旅するブランドへと成長を遂げました。HIMALAYAN 450 と、2026 年初めに発表した HIMALAYAN 440 への反響は、HIMALAYAN ファミリーとバイク旅への変わらぬ愛を裏付けていると言えるでしょう。HIMALAYAN 750 は、その HIMALAYAN シリーズの精神を力強く、そして新たに表現するモデルです。10 年間の学びを結集し、私たちは HIMALAYAN の系譜をさらに先へと進めました。そしてロイヤルエンフィールド初の 750cc エンジンを搭載したこのモデルは、国境を越え、多様な地形に挑み、どこへでも行ける自由を体験したいライダーのために開発しました。そしてアドベンチャーバイクらしいデザインと、ライダーをサポートしながらも主張しすぎない最新の電子制御技術も融合させました。その結果、ライダーが求める個性と冒険心を、これまで以上に押し広げる高い走破性を兼ね備えたマシンが生まれました」

伝説の誕生

1955 年にインドでロイヤルエンフィールドの歴史が始まって以来、私たちは精神的な故郷と呼ぶヒマラヤの奥深くへと分け入ってきました。2016 年、山々は新たな仲間を迎え入れました。HIMALAYAN 411 です。新しい世代のライダーに冒険を身近なものとし、ミッドサイズ・アドベンチャーという世界的なムーブメントを巻き起こしたバイクです。その後に続いたのは、大陸を越え、世界中の何千人ものライダーという仲間たちとともに探検し、進化してきた 10 年でした。それは 2023 年の HIMALAYAN 450 の誕生につながりました。すべては高地のヒマラヤで生まれた、冒険への新たなアプローチなのです。

2026 年、新たな HIMALAYAN が誕生します。兄弟モデルの堅牢さとシンプルさを、新たな領域へと導きます。故郷から遠く離れた地を走り、オフグリッドの地平線を探し求める旅のために設計し、新たなフロンティアと新たな冒険のために作り込みました。技術に頼導かれて進むのではなく、自らの道を切り拓くための、純度を高めたアドベンチャーバイクなのです。HIMALAYAN 750 は、力強い新しい心臓と、ヒマラヤの物語を始めたときと同じ魂と精神を併せ持ち、過去 10 年に積み重ねたあらゆる走行距離とそこでの経験、走破したあらゆる地形が、その内部に刻み込まれています。

トップグレードのアンタークティック・シルバーに加え、スポークホイール仕様にはバイキング・ブロンズとシベリア・ホワイトを設定。全 3 モデルを用意。キャストホイール仕様はアズテック・グリーンとテクトニック・ブラックの 2 モデルをラインナップしました。

製品ハイライト



魅力的なエンジン

スムーズで扱いやすく、そして力強い。個性豊かな排気量 743cc 空冷並列 2 気筒エンジンは、5,000rpm で 63Nm のトルクを発生し、その 90%を 3,500rpm という低回転から引き出すことができます。どんな地形にも対応する力強さと、走り続けるために必要な性能を備えています。シートの上で過ごす長い一日、曲がりくねったワインディングロード、どこまでも続く林道。道のある場所もない場所も、HIMALAYAN 750 のステージなのです。



最新技術を備えたレトロ

HIMALAYAN 750 はレトロなシルエットと、そのデザインにシームレスに組み込んだ最先端技術が特徴です。
5 つのライディングモード（ロード、ロードスポーツ、レイン、トレイル、カスタム）は、エンジンマッピング、コーナリング ABS、リーン角感応式トラクションコントロールが連動し、それぞれのモードで異なる走行体験を提供します。



ナビゲーションとコネクティビティを統合した 4 インチ円形 TFT、クルーズコントロール、TPMS(タイヤ空気圧監視システム／Tire Pressure Monitoring System)、イモビライザー、そして新しい 7 インチ LED ヘッドライトを装備。ハイパワーLED により、より広がりのある高輝度の光を生み出します。新設計のリフレクターとアルミニウム製シェルにより放熱性を高め、HIMALAYAN 独自のレトロなスタイルに現代的な性能をもたらします。直感的な操作が可能なスイッチキューブと新設計のジョイスティックによって、操作性も高めました。



ツーリング DNA

細身のウエストライン、815mm のシート高、独立したライダー用およびパッセンジャー用シートを標準装備。アクセサリーのローライドシート、ツーリング・ライダーシート、ツーリング・パッセンジャーシートにより、ライダーは自分のニーズに合わせてバイクを仕立てることができます。
60mm の範囲で 5 段階に調整できるウインドスクリーンは、長距離の旅でも安心感と快適さが得られるよう設計しました。
鍛造アルミニウム製のシフトペダルとリアブレーキペダルは可倒式。エンジンカバーはマグネシウム製とし、軽量化しながら機能性を最大限に高めました。



ダイナミックな精度

インナーチューブ径 43mm の SHOWA 製倒立式フロントフォークはフルアジャスタブル仕様。ストローク 190mm です。リアには、リバウンドダンピング調整とリモートプリロード調整機能を備えた SHOWA 製モノショックを組み合わせ、リアホイールトラベルは 175mm としました。これらを HIMALAYAN 750 に合わせてセッティングすることで、必要な場面では俊敏な動きを、そして安定性が求められる場面では確かな接地感を発揮するサスペンションに仕上げました。

フロント 19 インチとリア 17 インチのチューブレスタイヤに、キャストホイールまたはスポークホイールを組み合わせ、オンロードでの俊敏性とオフロードでの走破性を両立。ダブルディスクのフロントブレーキシステムが高い制動力を発揮し、標準装備の TPMS がタイヤ空気圧をリアルタイムで監視します。

6 軸慣性計測ユニット(IMU)を搭載。3 軸加速度センサーと 3 軸ジャイロスコープにより、直線加速度、ピッチ(車体の上下の動き)／ロール(車体の傾き)／ヨー(車体が左右に旋回する動き)を常時監視し、そこで得たデータを基に、コーナリング ABS やリーン角感応式トラクションコントロールなどのライダーサポート機能を作動させ、走行安定性と安全性を高めるためにライダーの操作をサポートします。



アンタークティック・シルバー｜ツーリングパックを備えたフラッグシップ仕様

　アンタークティック・シルバー仕様は、最大級の冒険に対応する装備をパッケージした HIMALAYAN 750 です。GIVI(ジビ)社と共同開発した専用設計の GIVI 製トップケース、取り付けステーと内袋付きの GIVI 製パニアケースを装備します。またグリップヒーター、ハンドガード、アルミニウム製スキッドプレートも標準装備します。

　バイク用ラゲッジとアクセサリーの世界的リーダーである GIVI 社とのコラボレーションにより、ロイヤルエンフィールドは HIMALAYAN 750 専用のラゲッジソリューションを開発しました。ツーリング用品における GIVI の専門性と、ロイヤルエンフィールドの深いアドベンチャーの伝統を融合させたこれらのアクセサリーは、別途マウント用ラックを必要とせず、シームレスに装着可能です。このシステムは過酷な環境で、実走行による厳しいテストを行い、長距離の旅に必要な容量と信頼性をライダーにもたらします。専用のハードラゲッジソリューションを補完す

るのが、同じく GIVI とのパートナーシップで製造したソフトラゲッジのラインナップで、お客様のニーズに最適なラゲッジを選ぶことが可能です。

＜ロイヤルエンフィールドについて＞

1901 年の創業以来、ロイヤルエンフィールドは美しいオートバイを作り続けてきた二輪車ブランドです。そのルーツは英国にあり、1955 年にマドラス(現チェンナイ)に製造工場を設立。以来ロイヤルエンフィールドは、インドのミッドサイズ・モーターサイクルセグメントの成長を牽引してきました。ロイヤルエンフィールドのモーターサイクルは、美しく、シンプルで親しみやすく、ライディングする楽しさに溢れた乗り物である。それは我々ロイヤルエンフィールドが、自らを『Pure Motorcycling／ピュア・モーターサイクリング』と呼ぶ由縁です。

ロイヤルエンフィールドのプレミアムラインナップには、クルーザーの「METEOR 350(メテオ・サンゴーマル)」、650 パラレルツインモーターサイクルの「BULLET 650(ブリット・ロクゴーマル)」、「CLASSIC 650(クラシック・ロクゴーマル)」「SUPER METEOR 650(スーパー・メテオ・ロクゴーマル）」、「INT650(アイエヌティ・ロクゴーマル）」、「CONTINENTAL GT650(コンチネンタル・ジーティー・ロクゴーマル）」、アドベンチャー・モーターサイクルでは「HIMALAYAN 450(ヒマラヤ・ヨンゴーマル）」、アイコニックな「GOAN CLASSIC 350(ゴアン クラシック・サンゴーマル）」「BULLET 350(ブリット・サンゴーマル）」、「CLASSIC 350(クラシック・サンゴーマル）」があります。また我々は 2024 年に、新しいシティ＆電動モーターサイクルブランド『FLYNG FLEA(フライング・フリー)』を発表しました。それはモダンなデザインと先進技術を融合させた、都市型モビリティカテゴリーにおける我々の新たなチャレンジでもあります。

また我々ロイヤルエンフィールドは、世界各地でモーターサイクルイベントを企画しています。とくに、毎年 11 月にインド西海岸のリゾート地ゴアの美しいビーチに、世界中からロイヤルエンフィールド・ライダーが集まるイベント「Motoverse(モトバース)」や、ヒマラヤ山脈の高地を走る「Himalayan Odyssey(ヒマラヤン・オデッセイ)」が有名です。世界中の人々がロイヤルエンフィールドを走らせる世界同日開催のライディングイベント「One Ride(ワンライド)」も実施しています。

インドのトラック大手 Eicher Motors Limited(アイシャーモーターズ・リミテッド)の一部門であるロイヤルエンフィールドは、インドの主要都市に 2000 以上の店舗を構え、世界 60 カ国以上に 850 近い店舗を展開しています。また、ロイヤルエンフィールドは、英国のブランティングソープとインドのチェンナイに 2 つのテクニカルセンターを有し、インドの都市チェンナイ近郊のオラガダムとヴァラムヴァダガルに 2 つの最新鋭の生産施設を運用しているほか、バングラデシュ、ネパール、ブラジル、タイ、アルゼンチン、コロンビアの 6 ヶ所に近代的な CKD(コンプリート・ノック・ダウン)組立工場も有しています。

ロイヤルエンフィールドのブランドや製品に関する詳細は下記公式ウェブサイトをご覧ください。
https://www.royalenfield.co.jp

全国の ROYAL ENFIELD 正規販売店は下記よりご確認いただけます。
https://www.royalenfield.co.jp/dealers/

本件に関するお問い合わせ先
ロイヤルエンフィールド総輸入発売元：VT ホールディングスグループ・ピーシーアイ株式会社
https://www.royalenfield.co.jp